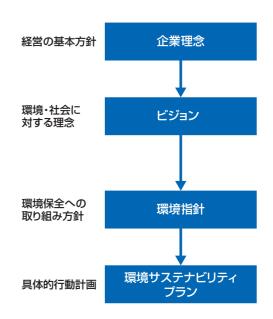
環境指針

三菱ふそうは新たに策定した「企業理念」および「ビジョン」(詳しくはP.4を参照)で、「社会的責任」を第一に掲げ、「積極的な社会貢献」をすることを明言しています。そして、従来どおり社としての「環境指針」を掲げて、環境保全を最重要課題の一つと認識し、関連会社、取引先の協力も得て継続的に環境保全に取り組むことを表明しています。

このビジョンと環境指針を全ての製品、サービス等に反映するために「環境サステナビリティプラン」(P.7参照)を設定して具体的な環境保全活動を進めています。



三菱ふそう環境指針

基本指針

地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し

- (1)グローバルな視野に立ち、車に関する開発、購買、生産、販売、サービスなど全ての企業活動の中で総力を結集し、環境への負荷低減に継続的に取り組みます。
- (2) 社会を構成する良き企業市民として、積極的に地域や社会の環境保全活動に取り組みます。

行動基準

- (1)製品のライフサイクル全ての段階において、環境への影響を予測評価し、環境保全に努める。 <重点取り組み>
 - ●温室効果ガスの排出量を削減して地球温暖化防止に努める。
 - ●環境汚染物質の排出を抑制し、汚染の防止に努める。
 - ●省資源、リサイクルを推進し、資源の有効活用と廃棄物の低減に努める。
- (2)環境マネジメントの充実に努め、継続的に環境改善に取り組む。
- (3) 環境規制、協定を遵守し、自主管理目標を設定して環境保全に取り組む。
- (4)国内外の関連会社や取引先などと協力し、環境保全に取り組む。
- (5)環境情報を積極的に公開し、地域や社会との相互理解に努める。

組織体制

● 環境専任組織

三菱ふそうは、三菱自動車から完全に分社した2003年1月に、全社的な環境保全活動を推進する組織として技術管理部を設置しました。技術管理部は、環境に関する社会動向の把握、環境施策の立案と実施状況のとりまとめを行っています。また、環境会議の事務局ならびに、国内外のリサイクル法への対応をはかる業務を担当しています。

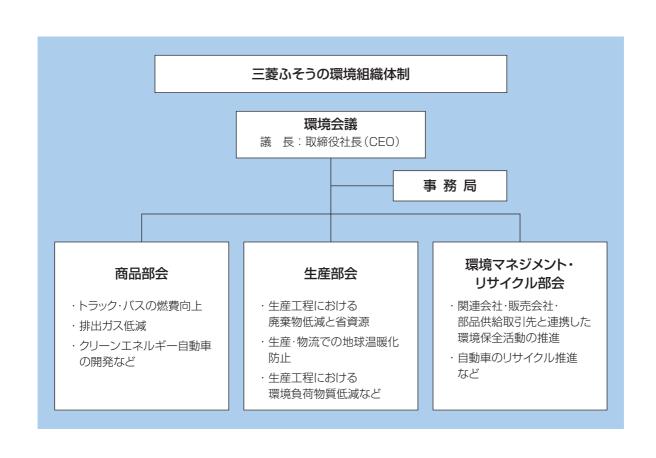
さらに、社内だけでなく、関連会社や販売会社および部品供給をお願いしている取引先の環境保全への取り組みを支援するなど、グループ全体の環境活動に携わっています。

● 環境会議

三菱ふそうは、2003年から、社長を議長とする「環境会議」を設置して全社的な環境保全活動を推進しています。

環境会議は傘下に「商品部会」「生産部会」「環境マネジメント・リサイクル部会」を置き、原則1回/年開催し、社の環境保全への取り組みの基本方針を決めるとともに、傘下の各部会が提案した事項について、審議・決定しています。

2003年度の活動に関しては、昨年度策定した環境サステナビリティプランに基づく各種取り組みを推進し、その状況を事務局の技術管理部が定期的にフォローアップしました。



環境サステナビリティプラン

三菱ふそうでは2002年4月から5年間を目安とした中期環境 行動計画「環境サステナビリティプラン」を策定し環境保全活 動を推進しています。このプランでは環境マネジメント、リサイクル、地球温暖化防止、環境汚染防止の4つの観点から具体的な目標を掲げています。 そして、各目標は、環境会議の各部会に分担され、それぞれ可能 な限り達成手段と達成時期を明確にしました。

このページに目標を掲げ、次のページに2003年度の活動実績を掲げます。

|環境サステナビリティプランの目標

1)環境マネジメント

分 類	項目	目標	
国内・海外生産関連会社との	ISO14001認証の取得推進	●関連会社のIS014001取得拠点を拡大	
連携	国内生産関連会社との連携	●グループ工場環境連絡会と「工場環境トピックス」の発行(2回/年)	
販売会社との連携	環境マネジメントシステムの構築支援	ルトシステムの構築支援 ●販売会社での環境マネジメントシステムの構築支援	
情報公開	報公開 環境に関する情報公開 ●環境報告書の発行		
		●インターネットによる環境情報の公開	
取引先との連携(グリーン調達)	ISO14001認証の取得推進	●主要取引先全てでISO14001またはEA21の認証の取得(2004年度末)	

2) リサイクル

-/ -/			
分 類	項目	目 標	
自動車のリサイクル推進	国内/欧州の自動車リサイクル法への対応	●リサイクル実効率95%の達成に寄与するための取り組み	
		・国内リサイクルシステム構築への協力	
		・製品の更なるリサイクル容易化への研究・推進	
		(事前評価、リサイクルに配慮した材料の開発、リサイクル容易化構造・ リサイクル材の使用拡大等)	
		・環境負荷物質(鉛、水銀、六価クロム、カドミウム)使用禁止/削減推進	
		●架装物リサイクル推進への協力	
生産工程における廃棄物低減	埋立処分量のゼロ化	●廃棄物発生量に対する埋立処分率0.1%以下を維持管理	
と省資源	リサイクルの推進	●リサイクル率 98%以上を継続	
	生産工程での副産物の発生抑制	●売上高当たり発生量(金属屑)を2002年度実績以下に低減(2010年度末)	
	水資源の有効利用	●水使用量を2000年度比 5%削減(循環利用の拡大等による)(2005年度末)	

3) 地球温暖化防止

- 7		
分 類	項目	目標
自動車の燃費低減	トラック・バスの燃費低減	●燃料消費の更なる低減
エアコン冷媒への対応	フロン系冷媒HFC134a使用量の削減	●冷媒使用量削減したエアコンシステムの採用拡大
	HFC134aを使わないエアコンの開発促進	●CO2冷媒エアコンの開発促進(エアコン機器メーカーと共同)
交通流円滑化	車両データ通信による運行管理システムの開発	●運行管理システムの開発促進
生産・物流での対応	CO2の排出抑制(工場の省エネ)	●CO2総排出量: 1990年度比20%以上低減
	物流におけるCO2の排出抑制	●出荷台数当たりCO2排出量:2000年度比10%以上低減(2005年度末)
	梱包、包装資材の低減	●木材梱包ケースの売上高当たり使用量:2000年度比15%以上低減(2005年度末)

4) 環境汚染防止

分 類	項目	目標
低公害車等の開発・普及	クリーンエネルギー車の市場導入	●路線バスハイブリッド電気自動車の市場導入
	国内·海外の排出ガス規制への対応	●規制適合車のタイムリーな市場導入
騒音低減	国内·海外の騒音規制への対応	●規制適合車のタイムリーな市場導入
生産工程における環境負荷	VOC排出抑制	●キャブ塗装工程でVOCの排出削減 目標:20g/m²以下(2007年度末)
物質の低減	電着塗装の鉛フリー化	●トラックキャブ電着塗装ラインの鉛フリー化推進(2004年度末)

2003年度の実績

1)環境マネジメント

2003年度 実績	評価	参 照 頁
●三菱ふそうバス製造(株)が2003年12月にISO14001を取得	0	9
●グループ工場環境連絡会を4月と12月に開催し、トピックスを2003年6月と2004年1月に発行	0	10
●環境取り組み宣言は、36社全て完了し、販社の環境取り組み冊子の改訂版を作成	0	25
●2003年7月10日に「環境報告書2003」を発行。同日インターネットに掲載	0	1.1
●車種別環境情報、クリーンエネルギー車ガイドブック等に環境情報を掲載		11
●2003年度末70%達成。EA21を含めて取得推進に向けて個別対応中	0	19

2) リサイクル

2003年度 実績	評 価	参 照 頁
●リサイクル関連法人への対応要員派遣	0	26
●リサイクルシステム構築作業への積極参加		
●架装メーカーに向けて架装物リサイクル対応説明会等実施		
●廃棄物発生量に対する埋立処分率:0.02%	0	21
●リサイクル率:99.4%	0	21
●売上高当たり発生量(金属屑): 0.0549t/百万円	0	21
●水使用量:895千m³/年	Δ	22

3) 地球温暖化防止

2003年度 実績	評価	参 照 頁
●低フリクション化による燃費低減効果・耐久性確認実施	0	13
●中型トラック用エアコンシステムの開発	0	14
●エアコン機器メーカーと共同開発中	0	14
●走行データ解析による燃費予測ロジックを構築し、省燃費運行アドバイスを可能とした	0	17
●CO2総排出量:121千t-CO2(153千t-CO2/2010年度目標)	0	20
●出荷台数当たりCO₂排出量: 40.1kg(2000年度比16.6%減)	0	24
●木材梱包ケースの売上高当たり使用量:木材△22.7% 合板△27.1% (2000年度比)	0	24

4) 環境汚染防止

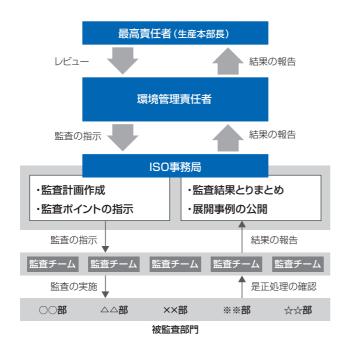
2003年度 実績	評 価	参照頁
●大型路線バス「エアロノンステップHEV」発売(2004年2月)	0	16
●超低PM適合車発売: 大型トラック(2003年8月)/小型トラック(2004年2月)/大型路線バス(2004年3月)		15
●新長期規制ガソリントラック発売:小型トラック新長期U-LEV (★★★)発売(2004年2月)		15
●大型トラック発売(2003年4月)	0	16
●キャブ塗装工程のVOCの排出:23.2g/m²	0	22
●トラックキャブ電着塗装ラインの鉛フリー化推進:2003年10月試験完了、11月切換開始	0	23

環境監查

三菱ふそうでは環境マネジメントシステムが有効に機能していることを確認するために、部門毎に少なくとも年1回の内部監査と、第三者機関による年1回の外部監査を受けており、環境マネジメントシステムの適正維持・改善に努めています。

内部監査では、資格認定制度により社内外の教育を受けて認定された内部監査員(社員)が600~700項目に及ぶ環境関連項目を確認します。そこで指摘を受けた事項については、最高責任者のチェック&レビューを受け、的確な是正措置を実施しています。また、被監査部門の取り組みで特に優れた点については、全部門へ広く展開する仕組みとなっています。

ちなみに、2003年度の外部監査では、不適合の指摘はなく、観察事項5件の指摘を受けました。全体としては環境マネジメントが適正に運用・維持されているとの評価をいただいています。 指摘事項については直ちにシステムの是正を行うとともに、引き続きよりレベルの高いシステムの運用を目指し努力していきます。



内部環境監査のしくみ

緊急時対応、環境に関する事故など

● 緊急時対応

工場の生産活動においては、安全操業と環境負荷低減のために、 適正な運転基準・作業標準を定めて、安定した操業の維持管理 に努めています。地震などの天災や日常の作業の中で予想される緊急事態を想定し、最善の方法で対処できるように、「緊急 時の対応方法」を定めて定期的に対応訓練を実施しています。

● 事故

2003年度は、環境に関連した事故はありませんでした。

● 苦情

2003年度に地域の方からの苦情は5件ありました。騒音・臭気等に関するものが大半で、原因究明・発生源対策等の改善に努めていますが、中には因果関係について更なる詳細な調査が必要なものもあり、引き続き工場周辺の定期パトロール等によるモニタリングを実施していきます。

● 訴訟

環境に関する訴訟についてはありませんでした。

● 環境に関するリコール

2003年度に国土交通省に届け出たリコールのうち、環境に関連するものはありませんでした。

ISO14001への取り組み

三菱ふそうでは、環境取り組みの透明性、信頼性を確保するために、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO 14001の認証を下表に示すようにまず製作所において取得しました。

2002年12月には、三菱ふそう川崎製作所の認可更新にあわせて、「開発・設計業務に関する環境マネジメントシステム」についてもIS014001の認証を取得しました。

また、国内·海外の関連会社でも認証取得を進めており、主要な 関連会社においては2003年度末までに取得を完了しています。

三菱ふそう	川崎製作所	1999年	12月
二変いてフ	開発部門	2002年	12月
	(株)パブコ	2000年	6月
国内関連会社	三菱ふそうテクノメタル(株)	2003年	3月
	三菱ふそうバス製造(株)	2003年	12月
海外関連会社	MFTT (タイ)	2001年	6月
/两/下天任五社	MTE (ポルトガル)	2002年	2月

ISO14001認証取得状況

関連会社の取り組み

● 国内関連会社との連携

三菱ふそうでは、生産関係の主要関連3社との間で1年に2回「工場環境連絡会」を開催して、三菱ふそうと同レベルの環境取り組みの推進を図るとともに、相互の情報交換を行っています。 2002年度以来各社とも「中期環境行動計画」を策定し、半年毎に進捗確認を実施しています。

また、関連取引先約40社を対象に年2回「工場環境トピックス」を発行し、法規制の動向、環境問題に関する情報提供を行っています。



工場環境トピックス





お客様 国内販売会社 💙 ★(連結子会社)東京三菱ふそう自販㈱ 他 全27社 海外製造及び販売会社 (持分法適用会社) 2社 **★ミツビシ・フソウ・トラック・オブ・アメリカ** (独立系会社) 7計 ★ミツビシ・フソウ・トラック・ヨーロッパ ★ミツビシ・フソウ・トラック・アンド・バス・オーストラリア ★ミツビシ・フソウ・トラック(タイランド) 他 物流・その他サービス会社 ↓ ふそう陸送㈱ (持分法適用会社)他 三菱ふそうトラック・バス(株) 国内製造会社 👻 ★三菱ふそうバス製造㈱ ★三菱ふそうテクノメタル(株) その他の関係会社 ★(株)パブコ (含む大株主) エンジニアリング及び 情報システム会社 ★株かるこうテック ダイムラークライスラー・アーゲー ★ ふそうエンジニアリング(株) ★菱和車体工業㈱ 三菱自動車工業㈱ 三菱重工業㈱ ★ふそうテクニカルサービス(株) 和興産業㈱(持分法適用会社)他 三菱グループ ★…三菱ふそうの子会社 製品・半製品・部品の流れ ◆・・・・・・ サービス・その他の流れ

お客様と三菱ふそうトラック・バス株式会社グループのかかわり

コミュニケーション

三菱ふそうは、インターネットホームページ等を中心に、環境情報の提供に努めています。

● 「環境報告書」の発行

三菱ふそうの環境報告書は、2004年から日本語版と英語版の 2ヶ国語で発行し、冊子での配布と、インターネット/イントラネットホームページ上での閲覧という2つの方法で社の内外へ公開 しています。なお、1999年から2003年までは三菱自動車の 環境報告書の中でトラック・バス部門として公開してまいりました。

三菱自動車	初版	1999年	9月
三菱自動車	第2号	2000年	8月
三菱自動車	第3号	2001年	9月
三菱自動車	第4号	2002年	10月
三菱自動車/三菱ふそう	第5号	2003年	7月
三菱ふそう(本誌)	初版	2004年	12月

● インターネットでの情報提供

環境活動を社内外に向けて広く紹介するために、環境ホームページ「三菱ふそうの環境への取り組み」を開設しています。この中では、上記の環境報告書や、トラック・バスに関わる規制や低公害車開発への取り組みなど、三菱ふそうの環境に関する情報をまとめています。

なお、環境報告書ではカバーしきれない最新の環境関連情報について、報道機関向けにプレスリリースを発行するとともに、同内容をインターネットホームページ上で逐次公開しています。



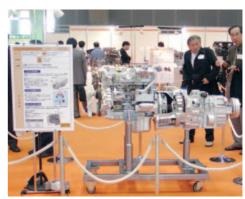
トラック・バス 規制の概要と影響 (http://www.mitsubishi-fuso.com/ECO/index.html)

● 外部行事への協力

省エネ低公害車関係

低公害車の普及広報活動として各地で開催される展示会やフェアなどに、各種の低公害車を出展しています。2003年度の参加実績は下表のとおりです。

行 事 名	主 催	実 施 日	開催場所
自動車技術展 「人とクルマのテクノロジー展」	自動車技術会	5月21日~ 23日	パシフィコ横浜 (神奈川県)
エコカーワールド2003	環境省·東京都他	5月31日~ 6月1日	代々木公園 (東京都)
低公害車セミナー新潟	運輸低公害車 普及機構(LEVO)	7月15日	新潟市産業振興 センター(新潟県)
やまがた環境フェスティバル in新庄	NHK山形放送局、 山形新聞他	8月24日	JR新庄駅前 (山形県)
OSAKA低公害車フェア2003	大阪府他	9月19日~ 20日	大阪ビジネス パーク(大阪府)
低公害車セミナー宇都宮	運輸低公害車 普及機構(LEVO)	10月8日	栃木県産業技術 センター(栃木県)
大阪ガスエネルギーフェア	大阪ガス	11月12日~ 14日	大阪
寝屋川エコフェスタ	寝屋川市	11月16日	大阪
低公害車フェアinおおさか	大阪市·公害健康 被害補償予防協会	11月21日~ 23日	アジア太平洋 トレードセンター (大阪府)
低公害車セミナー福岡	運輸低公害車 普及機構(LEVO)	1月28日	福岡国際 会議場(福岡県)



人と車のテクノロジー展出展のハイブリッドエンジン



エコカーワールド2003出展のハイブリッドバス

社内教育/啓発

三菱ふそうでは環境問題に関する世の中の動向や社の環境方針を社員全員がよく理解し、環境保全への意識を高めるために、 様々な教育/啓発活動をしています。

● 階層別社員教育

ISO事務局などの環境担当部門が中心となり、各階層の社員を対象とした社内教育を実施しています。

(03年度は7回実施)

● 環境関連資格の取得促進

三菱ふそうでは、社員が環境関連の公的資格を取得することを 推奨しています。主な資格の所有者数は下表のとおりです。

区 分		合計(人)
	大気	9
	ダイオキシン	2
公害防止管理者	水質	15
	騒音·振動	24
7.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1	熱	12
エネルギー管理士	電気	3

● 環境月間の活動

環境省では毎年6月を「環境月間」と位置づけ各種啓発事業を展開しており、三菱ふそうもそれに応じて下表の活動を推進し、 社内の環境意識を高めることに努めています。

項目	内容				
啓発活動	・環境月間行事の社内PR (社内報への掲載、ポスターの掲示)				
	・環境月間ポスターコンクールの実施 等				
	・環境施設の点検パトロール				
実践活動	・クリーン奉仕活動の実施				
	・ポイ捨て禁止キャンペーン 等				

● アイドリングストップ活動の推進

車両のアイドリングストップについては社員への指導とともに、 敷地内に乗り入れるお客様や納入業者にもご協力をお願いして います。

環境会計

● 2003年度の環境会計について

環境保全コスト*1

三菱ふそうは、製品の使用過程における環境負荷低減を最大の テーマと考えて、低燃費化、排出ガス中の有害物質削減等の研 究開発をしています。また、生産段階における環境保全にも様々 の対策を実施しています。

昨年度環境負荷の抑制・低減に結びつく活動に係る費用として、 開発部門における研究開発に係るコスト および製作所におけ る省エネ対策や廃棄物処理などに係るコストを中心に算出しま した。

分類は、環境省の環境会計ガイドライン*2を参考にしています。 集計対象期間は2003年4月~2004年3月です。

	分	類	金額 (百万円)	開発部門 発生分	製作所 発生分
(1)事業エリア内コスト		1,547	34	1,512	
内	①公害防止コスト		(487)	(28)	(458)
	②地域環境	保全コスト	(889)	(0)	(889)
訳	③資源循環	ロスト	(171)	(6)	(165)
(2)上・下流コスト		0	0	0	
(3)管理活動コスト		28	8	20	
(4)研究開発コスト		11,799	11,799	0	
(5)社会活動コスト		73	51	22	
(6)環境損傷対応コスト		1	0	1	
	合	計	14,447	11,892	1,555

解説

※1 環境保全コスト:

- (1) 各製作所における、省エネ、省資源、廃棄物処理などの環境対策に係るコスト
- (2)使用済部品の回収などのコスト
- (3) ISO14001、社員への環境教育などのコスト

- (4) 燃費向上、排ガス低減、クリーンエネルギー自動車、リサイクルなどの研究開発に係るコスト
- (5) 環境関連の外部団体への寄付金・会費などのコスト
- (6) 国・地方公共団体等への賦課金などのコスト
- ※2 環境省環境会計ガイドライン:用語や表の分類などは、2003年度版の環境報告書ガイドラインに基づいています。